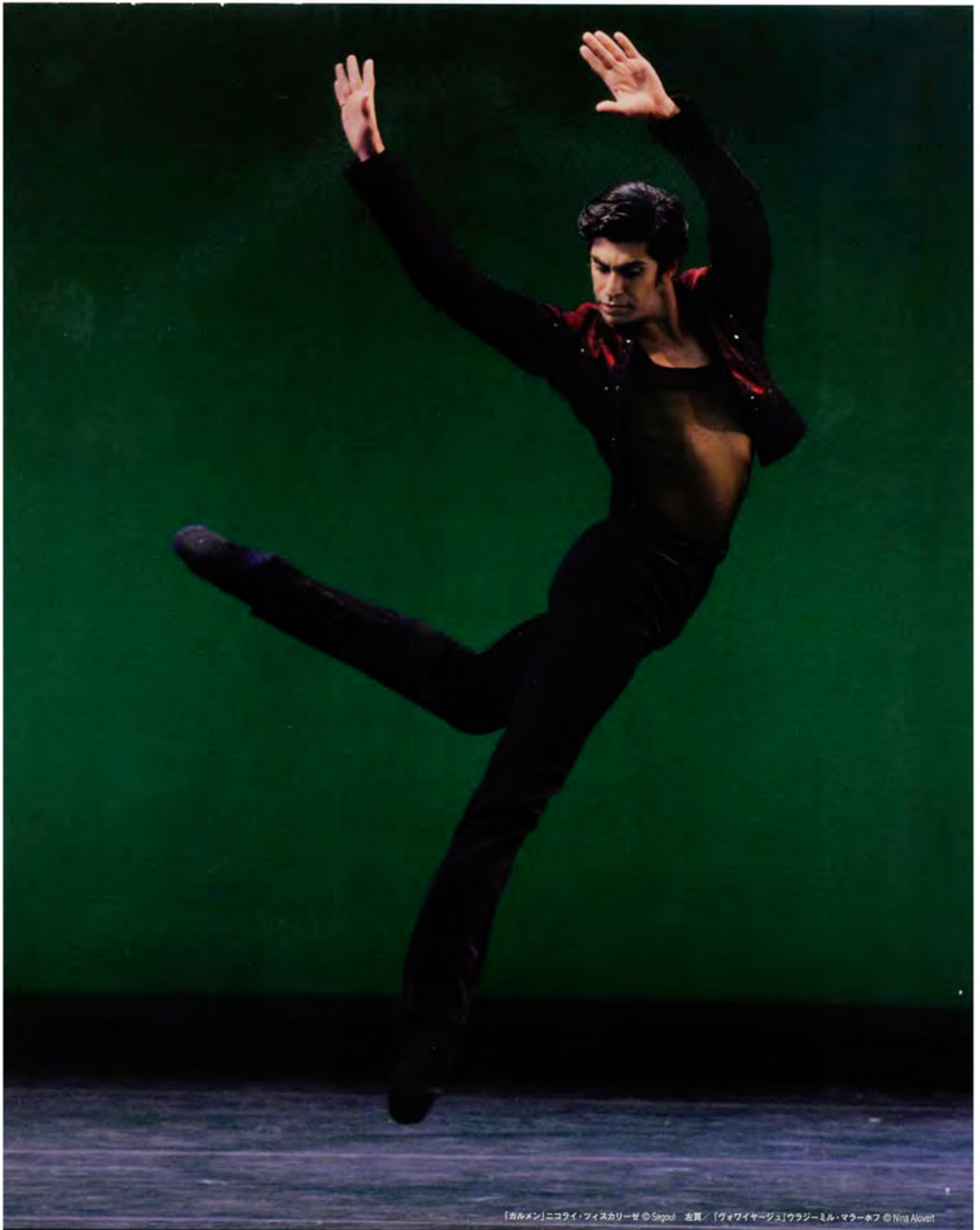




NY取材 ユース・アメリカ・グランプリ2009

華やぐ若さに包まれて

Youth America



【カルメン】ニコライ・フィスカリーゼ © Sepoul 左頁 / 【ヴォワイヤージュ】ウラジーミル・マラーホフ © Nina Alovitt

若手ダンサーの登龍門ユース・アメリカ・グランプリが今年もニューヨークで開催！  
10周年記念ガラ公演には、マラーホフ、ツィスカリーゼが登場し、恩師の80歳を祝った

# Grand Prix 2009



【ゴバック】ゲンナジ・サヴェリエフ（『偉大なるビョートル』ガラ）© Nina Aloveri



【マノン】ヴィクトリア・テリョーシキナ、マルセロ・ゴメス（『偉大なるビョートル』ガラ）© Hiroaki Tanioka

「偉大なダンサーの陰には、必ず偉大な教師がいます。しかし、彼らに光が当たるとはほとんどありません」  
 司会者として舞台上に登場したアレクセイ・ラトマンスキーの言葉とともに、「偉大なるビョートル」と題された公演の幕が開いた。十代の若者を支援するスカラシップ・コンクール、ユース・アメリカ・グランプリ（YAGP）の十周年記念公演。今年八十歳を迎えたバレエ教師ビョートル・ペーストフを讃えるガラである。名ダンサーを讃えるガラは世に多いが、名教師を讃えるガラというのは珍しい。バレエ教育に真摯に取り組んできたYAGPならではの催しである。四月二十三日、NYシテイセンター。

ペーストフは長年ポリシヨイ・バレエ・アカデミーで教鞭を執ってきたが、とくにウラジミール・マラーホフを育てたことで知られる。彼の才能に魅せられたペーストフは一年生から卒業までの八年間ずっと担当教師を務め、夏休みも彼の故郷クリヴオイログに付き添ってまで指導に当たるといふ熱の入れようだったという。そのほかにもニコライ・ツイスカリーゼ、アレクセイ・ラトマンスキー、アレクセイ・ファジーチェフ、ユーリー・ポソホフ、アレクサンデル・ヴェトロフ、ウヤチエスラフ・ゴルデーエフ……彼のもとから巣立ったダンサーの名を挙げていけば切りがない。YAGPの創設者でABTソリスト、ゲンナジ・サヴェリエフも彼の教え子である。ペーストフは九六年からシュツトガルトのジョン・クランコ・スクールに移り、現在もそこで教えて

いる。近年シュツトガルト・バレエは男性ダンサーの充実ぶりが光るが、それも彼が優れた教え子をバレエ団に送り込んでいるからである。

クラスで行われているアンシエヌマンが淡々と踊られるだけなのだが、決して退屈を感じさせない。難しいテクニクが詰め込まれたステップの連なりがとても音楽的だからだ。踊るのは容易ではないはずだが、生徒たちはそれを楽しそうにこなしていく。マラーホフ

「彼から学んだことで、もっとも重要だと思ふことは？  
 マラーホフ ペーストフ先生の指導は本当に質の高いものです。ダンサーに喜びを与えることができるとは、自分が持っているものをただ出し出してくれることだけです。あとは生徒たち一人ひとりで

「今回マラーホフさんはユース・アメリカ・グランプリの最終ラウンドをご覧になりました。日本からも出場者が大勢いました。マラーホフ 日本はほかがいちはん好きな国だし、観客のみならずにもいつも魅了されてきました。だから、日本人ダンサーにもいつも思いを寄せています。今回見た若いダンサーたちは全員とても才能があると思いますよ。いいカンパニーと出会い、活躍することができるよう祈っています。それが彼らにとっていちばん重要なことですから。」

Interview



© Shimbukan Dance Magazine

ペーストフに学んだ  
 バレエへの愛  
 ウラジミール・マラーホフ  
 Vladimir Malakhov / ベルリン国立バレエ芸術監督

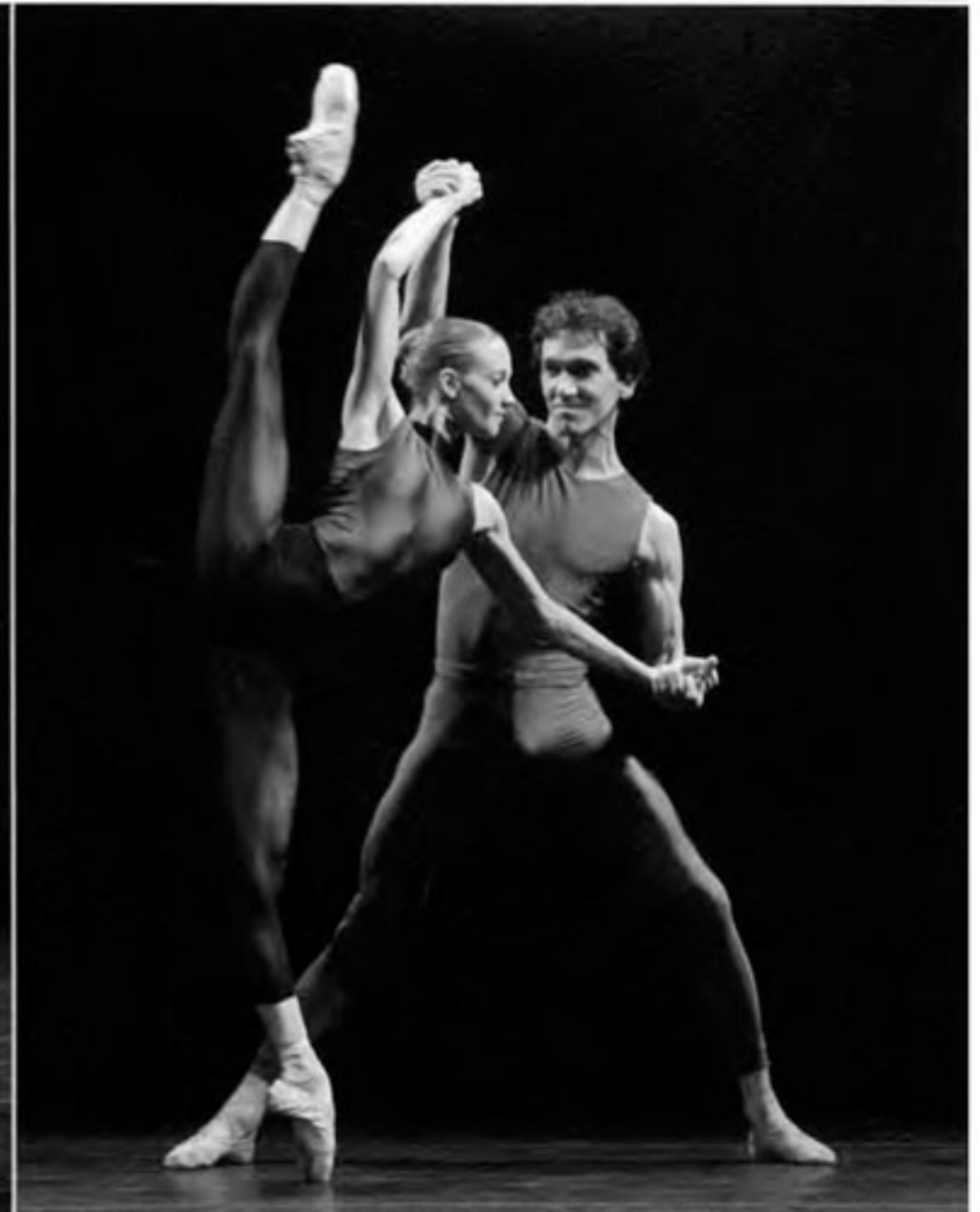
「マラーホフさんにとって、ペーストフはどんな存在？  
 マラーホフ 先生との思い出はたくさんあります。妥協を許さない厳しい教師で、彼に師事することができては幸運でした。とても特権的な経験だったし、光栄に思っています。ほかは彼に入学から卒業まで一貫して学ぶことができたんですから。先生を讃えるガラが今回催されたことにも喜んでいきます。」

「マラーホフさんにとって、マラーホフ 先生との思い出はたくさんあります。妥協を許さない厳しい教師で、彼に師事することができては幸運でした。とても特権的な経験だったし、光栄に思っています。ほかは彼に入学から卒業まで一貫して学ぶことができたんですから。先生を讃えるガラが今回催されたことにも喜んでいきます。」

「マラーホフさんにとって、マラーホフ 先生との思い出はたくさんあります。妥協を許さない厳しい教師で、彼に師事することができては幸運でした。とても特権的な経験だったし、光栄に思っています。ほかは彼に入学から卒業まで一貫して学ぶことができたんですから。先生を讃えるガラが今回催されたことにも喜んでいきます。」



「海賊」ウラジーミル・シクリャロフ (YAGPガラ) © Hideaki Tanioka



「イン・ザ・ミドル・サムホット・エレヴェイテッド」アリシア・アマトリアイン、ミハイル・カニスキ  
ン (「偉大なるピョートル」ガラ) © Hideaki Tanioka

もこのようにして日々鍛えられ磨かれていったのだらうと思わせる。

その後はベーストフの教え子たちによる舞台が続くが、公演前から大きく注目されていたのがマラーホフとツイスカリーゼの出演だった。九五年からABTのプリンシパルとして活躍したマラーホフだが、〇二年ベルリンに本拠を移して以来NYでの舞台は減っており、今回も久しぶりの登場だ。ツイスカリーゼはNYでも人気が高く、彼の名前がアナウンスされると、マラーホフに負けたくないくらい大きな拍手が客席から沸き起こった。マラーホフとツイスカリーゼの二人が同じ舞台上立つということ自体、稀である。恩師を祝う特別公演だからこそ実現したと言えるだろう。

ツイスカリーゼが踊ったのは、ブテイ振付のソロ版「カルメン」。もともと〇三年ルグリのために創作されたものだが、ツイスカリーゼに合わせて手直しが加えられたのだという。カルメン、ホセ、エスカミーリョという主要キャラクターをすべてひとりで踊りきる。女性パートは持ち前の柔軟性を生かして妖艶に、男性パートは大きな跳躍でダイナミックに。緻密な演劇性を感じさせたルグリと違って、ツイスカリーゼは劇場を突き破らんばかりにスケールの大きな踊りを見せる。まったく別の作品を見せられたかのようだった。

マラーホフはサフコヴィツ振付「ラ・ヴィータ・ヌオーヴァ」とツァネラ振付「ヴォワイヤージュ」の二つのソロを披露。とりわけ「ヴォワイヤージュ」は出色の舞台だった。日本でもおなじ

みの作品だが、一つひとつの動きに込められた思いが、喜びも、悲しみも、これまで以上の陰影をもって見る者に迫ってくる。マラーホフの人生そのものが滲み出たようなその踊りは、観客を深い感動へと誘った。

そのほかサヴェリエフ、ミハイル・カニスキ、サーシャ・ラデツキーらが出演。特別ゲストとしてマリインスキーのヴィクトリア・テリョーシキナとウラジーミル・シクリャロフも登場した。この日は「ドン・キホーテ」を、前日のコンクール授賞式のガラ公演では「海賊」を踊ったが、とりわけ精彩を

Interview



© Shinshukan Dance Magazine

「カルメン」はぼくの  
カスタムメイド

ニコライ・ツイスカリーゼ  
Nikolai Tsiskaridze ボリショイバレエプリンシパル

— まずベーストフとの思い出を話していただけですか。

ツイスカリーゼ 人生において、もっとも重要な人です。ぼくがダンサーになるうえで、基礎を作り上げてくれました。彼はとても厳しい教師で、優秀なダンサーを育て上げる術を知っている。「鉄は熱いうちに打て」を実践していましたね。彼のもとで苦労した生徒は、その後ダンサーとしていいキャリアを築けます。だからこそ、後になって全員が先生への感謝の気持ちを抱くんです。二十世紀において、彼ほどの成功を収めた教師はほかにいません。

— ベーストフから学んだなかでもっとも重要なことは？

ツイスカリーゼ 彼はダンサーという職業をとて真面目に考えていました。怠けてはいけない、弱

さに身を委ねてはいけないと教えられました。つねに二〇パーセントの力を出せ、ほかの人と同じではいけない、と。彼自身キャラクターダンサーでしたから、生徒一人ひとりの個性を磨くことがうまいんです。

— ガラ公演でブテイ振付のソロ「カルメン」を踊りました。

ツイスカリーゼ もともとはマニエル・ルグリのために振付けられたのですが、ローラン・ブテイはほかに合わせて作り直してくれました。女性パートも、ぼくがとても美しく映えるヴァリエーションに変えてくれたんです。多くの舞台のほうがいいと思いますよ。(笑)ブテイには優れた眼力があります。これはぼくのためのカスタムメイドの「カルメン」なんです。



エステバン・ヘルナンデス(ジュニア部門ユース・グランプリ) © Nina Aloveri

放っていたのがシクリヤローフだ。甘い貴公子タイプの彼がこれまでのイメージから大きく離れた役柄にも挑戦し、男性的な力強さをも獲得していたことはうれしい驚きだった。

ファイナルでは、マラーホフとツイスカリーゼに伴われてベーストフ本人が登場。満場の客席から割れんばかりの拍手がこの名教師に贈られた。

「偉大なるビョートル」ガラに先立って、二十一日にはコンクールの最終ラウンドが同じくNYシティセンターで行われた。カテゴリーは、シニア(十五〜十九歳)、ジュニア(十二〜十四歳)、プリ・コンペティティヴ(九〜十一歳)、アンサンブルの四部門。全米十都市と日本、ブラジル、メキシコ、イタリアで行われた予選通過者、海外応募のビデオ審査合格者の合計三六六名(アンサンブルは除く)がNYファイナルに参加。シニア部門とジュニア部門は、クラシックとコンテンポラリー審査を経て、それぞれ三十七名と四十二名が最終ラウンドに進出した。

YAGPの最終ラウンドがシティセンターで行われたのは今回が初めて。かつてバランシン率いるNYCBが本

拠とし、いままもABTが秋のシーズン公演を行っている由緒ある劇場で踊った経験は、子どもたちにとっても大きな糧となるに違いない。

シニア部門ではジェフリー・シリロがグランプリに、ジュニア部門ではエステバン・ヘルナンデスがユース・グランプリに輝いた。シリロはダイナミックで力強い『ラ・バヤデル』を披露。豪快なマネージュでは観客から大歓声が起った。昨年ジュニア金賞だったヘルナンデスはまた十四歳。竜巻を思わせるような回転と跳躍に客席はどよめいた。現在サンフランシスコ・バレエで

審査員インタビュー



**身体の動きを  
頭でも理解して**  
オリヴァー・マッツ  
Oliver Matz チューリッヒ・ダンス・アカデミー校長

—— マッツさんはベルリン国立歌劇場バレエで活躍され、九四年と九七年の世界バレエフェスティバルにも出演されています。

マッツ 二十五年間ダンサーとして踊った後、〇四年に引退を迎えました。第二の人生を若いダンサーを育てることに費やしたいと考え、妻のシユテフィ・シエルツァーとともにチューリッヒ・ダンス・アカデミーに校長として着任したんです。

—— 男性ダンサーを教えるうえで、どんなところに気をつけていますか。

マッツ ぼくは若いころ怪我で苦しんだことがあって、一つひとつの動きを分析し、いかに動くのが最適なのかを考えるようになったんです。これが現役時代のぼくの最大の強みで、いままも男性を教え

るうえでとても役立っています。なぜそう動くのかを身体と同時に頭でも理解する必要がある。きちんと考えることができるダンサーはあとで必ず伸びますよ。二十一世紀のダンサーはどうあるべきか。エレガンス、パワー、スピード、頭の回転。その四つが重要だと思っています。

—— YAGPの印象は？

マッツ 素晴らしいですね。彼らの課題は、才能を見つけ、彼らにチャンスを与えることです。ぼくは特定のタイプのダンサーを探しているわけじゃない。生徒を教えるのはつねに挑戦です。教えながら、資質を見出し、一人ひとりの才能を伸ばす鍵を見つけたいんです。さまざまなタイプのダンサーにぼくの学校に来てほしいですね。

活躍する兄アイザックと比べて、弟のほうが甘くノールな雰囲気を感じており、今後の成長が期待される。

シニア、ジュニアともにグランプリを獲得したのは男性だったが、全体としては女性ダンサーのレベルの高さが目立った。とりわけ十二歳から十五歳

くらいまでの子どもたちには際立った才能が集中しているのが興味深い。なかでも審査員から高い評価を得たのが日本人、韓国人の少女たちだった。たとえばシニア銀賞の刈谷円香。一六八センチの長身から繰り出される動きはクリーンで、同時に鋭さも併せ持つ。





カディル・オクラー (シニア男性銀賞) © Hideaki Tanioka



イ・ソジョン (ジュニア女性金賞) © Hideaki Tanioka



チェ・ヨンギョ (シニア男性金賞) © Hideaki Tanioka



サム・ザルディヴァー (ジュニア男性銀賞) © Nina Aloveri



直塚美穂 (ジュニア女性銀賞) © Hideaki Tanioka

審査員インタビュー



© Shirohoku Dance Magazine

**回数ではなく  
質こそが重要です**  
TED BRANTSON オランダ国立バレエ芸術監督

— YAGPの審査員を務めるのは今回が初めてですね。  
ブランドセン これまで私が関わってきたなかでも、もっとも大きいコンクールだと思います。世界中から集まった才能を見るのはとても興味深い。バレエ団でも毎年入団オーディションを開催していますから、大勢のダンサーがアムステルダムにやってきます。今年には四百人のダンサーが受験し、七人と契約しました。ここにはさらにダンサーを見つけに来たわけです。オーディションは完全にインターナショナルとは言えませんからね。  
— 出場者にはどんな印象を持ちましたか。  
ブランドセン テクニックの水準はとても高い。ただ、ビルエットの回数にこだわる生徒が一部にいました。それは重要ではありません。私自身、芸術監督として、そうしたテクニクには重きを置いてはいません。若いダンサーには大技ではなく、演技全体を美しくまとめることにも注意してほしい。回数ではなく、質こそが重要です。指導者にもそこに目を向けてほしいですね。

— オランダ国立バレエの特色は？  
ブランドセン 多彩なレパートリーがまず挙げられるでしょう。八十人のダンサーを擁したヨーロッパ最大級のバレエ団だからこそ、クラシックからコンテンポラリーまで幅広い作品を上演できるのです。フォーサイス、ウィールドン、ファン・マーネンら、世界最高のコリオグラファーが私たちに作品を振付けています。来シーズンはパストールがニジンスキーをテーマにした全幕バレエを振付けてくれますし、ラトマンスキー版『ドン・キホーテ』も初演するんですよ。



プリ・コンベンティティヴ部門の日本人出場者たち © Shirohoku Dance Magazine



エリサ・ヴァスケス (シニア女性金賞) © Hideaki Tanioka



ラファエル・ロドリゲス (サラ・チャービン・ランガム賞) © Hideaki Tanioka



毛利実沙子 (メアリー・デイ賞) © Hideaki Tanioka

審査員インタビュー



新世代の成長が  
うれしい  
ラリッサ・サヴェリエフ  
Larissa Savelliev YAGP創立者 芸術監督



ピョートル・パストフ マラーホフ、ツイスカリーゼとともに「偉大なるピョートル」ガラ © Hideaki Tanioka

—— 今年の審査の感想は？  
サヴェリエフ 昨年はポイズ・イヤードでしたが、今年は女性ダンサーがとても優れていたと思います。なかでも日本人の女の子は素晴らしかったです。とくにジュニア。テクニックもとてもクリーンです。このように次の世代が育ってきていることは本当にうれしい。

—— 『エスメラルダ』に代表されるように、最近は極端にテクニクに走る傾向も出てきていますね。サヴェリエフ それが私たちの悩みの種でもあるのです。審査員からもそこまでする必要はないという意見が寄せられています。私が子どもたちに送りたいメッセージは、何回多く回れるかにはわかりませんが、意識を向けなくて、ということ。それでは人を感動させられません。そうではなく、芸術性、音楽性を磨いてほしいのです。今年はピルエットで五回回ってみせた子が何人もいました。でも、ゆっくりと美しいパッセをしたほうがはるかに見る者に感銘を与えられることに気づいてほしいのです。

—— ほかに日本からの出場者にアドバイスは？  
サヴェリエフ もう少しコンテンポラリー・スタイルにも意識を向けるべきだと思います。現在のバレエ団では幅広いスタイルを踊ることが求められていますから、それにも対応できなくてはいけません。もうひとつは音楽性です。いまの子どもたちにはクラシック音楽はそれほど親しみのある存在ではない。だからこそ、もっとクラシック音楽を聴く必要があるんです。繰り返し聴いているだけでも違いますよ。そして、音楽を感じることです。それが音楽とともに踊ることを可能にしてくれるはず。



4月17~22日  
ニューヨーク

## ユース・アメリカ・グランプリ2009 審査結果

### コンペティション入賞者

#### シニア部門

クラシック部門

ジュニア・シリオ行賞/アメリカ

【女性】

金賞 エリサ・ヴァスケス/イギリス

銀賞 刈谷尚香/日本

銅賞 池田理沙子/日本

【男性】

金賞 チェ・ヨンギョ/韓国

銀賞 カティル・オクラ/トルコ

銅賞 ナヨン・イオウノ/日本

ジュニア部門

ユース・クラシック

エスタバン・ヘルナンデス/アメリカ

【女性】

金賞 イソジヨウ/韓国

銀賞 堀平くらみ/日本

銅賞 直塚美穂/日本

【男性】

金賞 マルセリーノ・サンベ/イタリア

銀賞 サム・ザルディヴァー/アメリカ

銅賞 玉川貴博/日本

プリ・コンペティティブ部門

「ホープ賞」

アラシ・ベル/イタリア

金賞 キム・セヨウ/韓国

銀賞 チョン・ジュギョク/韓国

銅賞 ジュゼッペ・パウシリオ/スイス

ジュニア・フォアティエ部門/アメリカ

●アンサンブル部門

金賞 金田・こののバレエアカデミー/日本

銀賞 オーランド・バレエ・スクール/アメリカ

銅賞 ホタテラゴネサ・フォレスト/アメリカ

特別賞

優秀振付家賞 ヴィクトール・プロト/ロシア

優秀指導者賞 ターニャ・シアン

芸術賞 ジャオ・ワンティン/中国

優秀ソロ・ロッパ・ダンサー賞

エリサ・ヴァスケス/イギリス

サラ・チエーリン・ランガム

ラファエル・ロドリゲス/ドイツ

メアリー・テイブ

ジェフリー・シリオ/アメリカ

毛利実沙子/日本

優秀学校賞 オーランド・バレエ・スクール

### スカラシップ受賞者

「ファイリー・スクール」

※短期スカラシップ

ダヤネ・アマール・シルヴァ/ブラジル

モニケ・クリスティナ・サザ/ブラジル

「ABTサマー・インテンシブ」

アラシ・ベル/イタリア

ジュゼッペ・パウシリオ/スイス

アーケイティアン・プロード/アメリカ

エミリー・スラウスキー/アメリカ

小川華歩/日本

サム・ザルディヴァー/アメリカ

プリアンナ・リー/アメリカ

スタインフェルト/アメリカ

根岸実沙/日本

「オーストラリア・バレエ・スクール」

※1年間

大木満里奈/日本

アメリカ・バクスター/オーストラリア

山本雅也/日本

西村奈恵/日本

※短期スカラシップ

「ファイリー・ワー」

オーストラリア

「バレエ・ウエスト・アカデミー」

※1年間

ナタリー・クラキリアン/アメリカ

※サマー・インテンシブ

ナタリー・クラキリアン/アメリカ

メアリー・アン・シェイファー/アメリカ

「アメリカ・ポリシヨイ・バレエ・アカデミー」

ミーガン・ヤマシタ/アメリカ

ファイバー・ガヴラ/アメリカ

玉川貴博/日本

「カナダ・ナショナル・バレエ・スクール」

カン・スア/韓国

アーサー・スタシヤック/アメリカ

佐藤航太/日本

鈴木麻希/日本

「チューリッヒ・ダンス・アカデミー」

ステイヴン・アズチガー/アメリカ

エヴァン・ラウドン/オーストラリア

「ビューストン・バレエ・ペン・ステイヴン・ソーン・アカデミー」

※夏季スカラシップ

高橋水紗/日本

山本裕/日本

サリン・チエメティアン/アメリカ

「ABTジャクリン・ケネディ・オナシ・スクール」

プリアンナ・リー/アメリカ

スタインフェルト/アメリカ

「ジェイコブス・ピロー」

ダニエル・エドワルド・ロドリゲス/ドイツ

ヴァレリア・カネ

「ジョン・クラシコ・スクール」

アリス・シー/カナダ

クリストファー・レヴルズ/アメリカ

山内未宇/日本

「ミラン・スカラ座バレエ学校」

刈谷尚香/日本

「ニューヨーク・ランド・スクール・オブ・ダンス」

勝井彰嘉/日本

佐川裕香/日本

カウエ・ヴィニシウス・テュアルテ/ブラジル

エリオ・エンリケ/ブラジル

「ナツメグ・コンサヴァトリ」

ミア・ラム/アメリカ

「オーランド・バレエ・スクール」

ミリアム・ギットソン/アメリカ

白井沙恵佳/日本

「バルツカ・シュレ・ドレスタン」

※短期

刈谷尚香/日本

吉村茜/日本

「プリンセス・グレース・クラシック・ダンス・アカデミー」

※短期スカラシップ

ジョナサン・スピンクナー/アメリカ

クレア・テイヴィス/アメリカ

マヤニー・マグリ/アメリカ

「ロイヤル・ウィニベグ・バレエ・スクール」

※短期スカラシップ

白井沙恵佳/日本

「バウラ・ヴィエラ・ボンテヴァン・レゼンテ」

14歳/ブラジル

マリア・ルイザ・ライア・ド・サントス・ヴェロソ・ピント/ブラジル

長島弘奈/日本

「ステツフス・オン・ブロードウェイ」

※3ヵ月間

「ハリッド・コンサヴァトリ」

※2009年度

フェルナンド・ロペス/ブラジル

アレックス・ババエフ/アメリカ

スティーヴン・ビルチャー/アメリカ

「ハンナ・マリー・ベット」

※2010年度

ハンナ・マリー・ベット/アメリカ

「キーロフ・バレエアカデミー・オブ・ワシントン」

勝井彰嘉/日本

佐川裕香/日本

アレックス・ババエフ/アメリカ

「ロック・スクール・フォー・ダンス・エデュケーション」

※1年間

アレク・ダン/アメリカ

堀江美月/日本

「ロイヤル・バレエ・スクール」

※1年間

スカイラー・マーティン/アメリカ

※短期2009年

根岸実沙/日本

山本裕/日本

ジェイミー・コビット/アメリカ

マリアナ・ロドリゲス/アメリカ

エヴァン・ラウドン/オーストラリア

「ロイヤル・バレエ・スクール」

※1年間

スカイラー・マーティン/アメリカ

「ワシントン・バレエ・スタジオ・カンパニー」

宮崎たまた/日本

木村綾乃/日本

カティル・オクラ/トルコ

堀江美月/日本

リア・クリスチヤンソン/アメリカ

ハンナ・マリー・ベット/アメリカ

アリス・シャウリ・ルター/アメリカ

直塚美穂/日本

白井沙恵佳/日本

マデリン・アンドルーズ/日本

フアン・エヴァンズ/日本

池田理沙子/日本

小坂こよみ/日本

左右木実希/日本

「ロイヤル・バレエ・スクール」

※1年間

スカイラー・マーティン/アメリカ

「ワシントン・バレエ・スクール」

※1年間

佐川裕香/日本

玉川貴博/日本

プリアンナ・ワトキンズ/アメリカ

ジャオ・ジュンジョン/中国

アレックス・デイヴィソン/アメリカ

ポー・フィッシャー/カナダ

「ワイティン国立劇場バレエ学校」

土田明日香/日本

池田理沙子/日本

石川まどか/日本

刈谷尚香/日本

吉田合ヶ香/日本

池内寛人/日本

横松大豊/日本

エミリー・スミス/オーストラリア

「バレエ・ウエストII」

タイラー・ガム/アメリカ

「ビューストン・バレエII」

山本裕/日本

「オーランド・バレエII」

バトリック・パルクス/アメリカ

リアンヌ・ジョーシ/アメリカ

「オーランド・バレエII」

クリスティアナ・ベントウ/アメリカ

ミゲル・グエン/カナダ

「ドレスタン・バレエII」

小笠原由紀/日本

サラ・ミシェル・ムラウスキー/アメリカ

「ワシントン・バレエ・スタジオ・カンパニー」

宮崎たまた/日本

木村綾乃/日本

カティル・オクラ/トルコ

ジョナサン・ハンクス/アメリカ